

記憶のなかの里山風景を辿り、

未来のヒントを探る。

東京アートポイント計画

多摩の未来の地勢図 Cleaving Art Meeting

Re: Satoyama

昔の暮らしの記憶を辿り、そこに宿る知恵と風景を、
未来への手がかりとして見つめ直す——。

自然と共存し、暮らしを紡ぐ“東京の里山”としての
“奥多摩の未来”をみんなで考えるための、
特別上映&おはなし会です。

昔の暮らし
に学ぶ

デザインの
明日の

2026

3.7 [土]

13:00-15:30

(12:45開場)

参加
無料

画／窪田美樹

会場: kori-mogu(こりモグ)

奥多摩町小丹波 492 (JR古里駅南口より徒歩1分)／定員30名(要申込、先着順)

特別上映

- ・民族文化映像研究所『竹縄のさと(埼玉県東秩父村萩平)』(36分)
- ・オリジナルインタビュー映像『Re: Satoyama』(約45分予定)

お問い合わせ&お申し込み

電話、メール、あるいは
右記の申し込みフォームよりお申し込みください。

☎ 090-8721-1492(曾田)

✉ miguel@dg8.so-net.ne.jp



※お申し込み時にお預かりした個人情報は、厳重に管理し、本事業の運営及びご案内のみに使用いたします。

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、特定非営利活動法人アートフル・アクション
企画：株式会社ミゲル／後援：奥多摩町教育委員会

東京都

ARTS COUNCIL TOKYO

先人たちの記憶のなかにひっそり残る、かつて当たり前だった風景。それらを拾い集めてみると、未来に向けて私たちが解くべき問いが、そっと浮かび上がってくる。

昔の暮らしから、未来がすこし見えてくる。
未来志向の“温故知新”。

Program [プログラム]

特別上映①

『竹縄(たかなわ)のさと』

(1978年／36分／監督: 姫田忠義／民族文化映像研究所)



©民族文化映像研究所

日本各地に息づく民俗文化や生活の営みを丁寧に記録してきた民族文化映像研究所(民映研)。高度経済成長の影で失われつつあった暮らしの知恵や手仕事を、人々の息づかいとともに写し取るその姿勢は、日本文化を未来へつなぐ重要な営みとして評価されてきました。今回上映する『竹縄のさと』は、東秩父村・萩平に伝わる竹縄づくりの技と、山里の暮らしを克明に捉えた作品です。かつて日本の山村では、日々の暮らしを支える多くの道具が、身近な自然素材から生み出されてきました。自然と人が寄り添って生きてきた関係をあらためて思い返させてくれる、貴重な記録映像です。

特別上映②

『Re: Satoyama(り・さとやま)』

(2025年／約45分／企画・制作: 曾田夕紀子(株式会社ミゲル)／撮影: 酒井卓真)



その面積の9割以上が森林に覆われた奥多摩町。都会とは異なる時間の流れのなかで、かつての暮らしの風景は時代とともに静かに姿を変えてきました。その失われつつある暮らしの風景を掘り起こすべく、奥多摩に長く暮らす先人たちにインタビュー。“かつての営み”の断片を掬い上げ、未来への小さなヒントを探ります。

おはなし会 むかしといまをつなぐ、小さな井戸端時間

『Re: Satoyama』に登場いただいた方にも参加いただき、昔の暮らしに思いを馳せる小さなおはなし会を開催します。昔話をしたい地域の方はもちろん、興味があつて聞くだけの人も大歓迎。世代をこえてのんびり語り合う場です。ぜひお気軽にご参加ください。

Time Schedule [タイムスケジュール]

- 12:45 開場
- 13:00 特別上映①『竹縄のさと』
—— 休憩 ——
- 14:00 特別上映②『Re: Satoyama』
- 14:50 おはなし会

※当日の状況次第で、内容が変更になる場合があります。

*本事業は「東京アートポイント計画」のひとつ、多摩地域を舞台に、地域の文化的、歴史的特性をふまえつつ今日の社会課題等に向き合うため多様な人々が協働、連携するネットワークの基盤づくりを進める『多摩の未来の地勢図 Cleaving Art Meeting』の一環として実施しています。東京アートポイント計画は、社会に対して新たな価値観や創造的な活動を生み出すためのさまざまな「アートポイント」をつくるために、東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京が、地域社会を担うNPOとともに展開している事業です。実験的なアートプロジェクトをとおして、個人が豊かに生きていくための関係づくりや創造的な活動が生まれる仕組みづくりに取り組んでいます。